

## 「確かな学力の向上を目指す学習指導に関する研究」 ～理解力や表現力に関わる指導を通して～

### I 研究の内容

#### 1. 研究の目標

学習指導において生徒の意欲的な態度を育てるために、学級経営を充実させ、基本的な生活習慣や学習習慣を身に付けさせることが大切なことを、実践を通して明らかにする。

#### 2. 具体的な取り組み

##### (1) 一人一人の個性を大切にする学級経営

一人一人の個性を大切にし、お互いに高めあえるような学級とはどのような学級か、そのような学級を経営するには、どんな方法があるのかを話し合い実践する。

##### (2) 基本的な生活習慣と学習習慣の確立

望ましい生活習慣と学習習慣（学校生活の過ごし方、チャイム席、あいさつ、発言の方法、ノートのとり方、話の聞き方など）について、山梨北中の方針を教師全員で確立（確認）し、どのような方法で、どのように身につけさせていくのか、検討・実践する。

##### (3) 個に応じた教科指導

個に応じた教科指導の視点は、次の4つである。

ア 評価をいかした指導の改善

イ 少人数指導・コース別学習など学習形態の工夫

ウ 個に応じた指導のための教材開発や、学習過程の支援の工夫・改善

エ 学びの機会の充実（山北タイムの充実、朝学習の充実、夏冬休みサポートタイム、自律ノート、家庭学習など）

##### (4) 理解力や表現力に関わる研究

全ての学習の基本である理解力や表現力について、各教科ごとに取り組んでいく。

#### 3. 講演・研究授業実践

- ・「コンピューター研修」Eライブラリー講師
- ・美術研究授業「不思議の国へ、ようこそ!!」（雨宮智美教諭）
- ・「新学習指導要領について」鈴木昇指導主事
- ・数学研究授業「平面図形」（竹内亮介教諭） 指導助言 瀧本三夫指導主事
- ・「教育相談研修」町田悦子カウンセラー

## Ⅱ 成果と課題

### (1) 一人一人の個性を大切にする学級経営について

○「学級経営を学び合おう」という話し合いを通して、学級開きの方法、担任の願いの伝え方、実態把握し意識して仕組んでいくこと、生徒理解、リーダーとの関わりなど、それぞれが持っている「技」を知ることができた。またそれを実践していくことができた。

○教育相談研修は、自分の良さを再確認し自信を高めるために、様々なコミュニケーションゲームを行った。自らの最良の理解者となり、自分を大切にすることが、周りの人を大切にすることにもつながっていくことを実感することができた。

・学年において生徒に何を望んでいくか「目指す生徒像」をより明確にし、学級ではわかりやすい言葉で目標を設定し取り組ませていきたい。

### (2) 基本的な生活習慣と学習習慣の確立

○学期に一度、学年の取り組みに対する成果と課題を洗い出し、全体で交流することができた。

・期日に提出物を出すなど、基本的な生活習慣と学習向上には関係性がある。現在できていることも、「進んで考え」「工夫し」、「心を込めて」させたい。

### (3) 個に応じた教科指導

○各教科において目標を設定し、取り組むことができた。また補助簿を作ることで、三者懇談の際、生徒の課題について共通理解が図れ、今後の指導にいかすことができた。

・山北タイム、サポートタイムはより効果があがるよう運用の仕方を工夫していく必要がある。

### (4) 理解力や表現力に関わる研究

○研究授業を通して学ぶことができた。

ア 美術の授業では、題材を理解させていく上で「わかりやすい言葉のルールを作り、授業を進める」ことをこころがけていた。また「笑顔&笑声カード」でめあてや鑑賞を書いたり、声に出したりして表現する工夫がなされていた。

イ 数学の授業では、図の性質（線対称）を有効に使い、正方形の紙を折って切り取り、図形を作った。そしてその方法を皆の前でわかりやすく説明するところに工夫が見られた。

○新学習指導要領についての研修がもてた。

・日常生活や学習の場において、自分で考え判断し、言葉にすることができにくい面が見られる。マニュアルは必要だが、そこから応用させていくために、「思考力・判断力・表現力」の継続研究が課題である。

## Ⅲ 成果物

・学習指導案・山北タイム計画表・各教科評価説明会資料 など

(研究主任 鮎澤智美)